

もう、 死なせない!

— 子どもの生きる権利

桃井和馬
Kazumasa Momoi



エバーグリーン藤枝 第14回企画

— 世界 140 カ国を取材した写真家が見る世界の今 —

「武力による安全保障」を超えて 希望ある未来へのヒント

日時

3/31 SAT

13:30~ (開場13:00)

会場

藤枝市文化センター

(藤枝市駅前 2-1-5 藤枝駅北口より徒歩3分)

13:00 開場 受付
 13:30 開会 主催者あいさつ
 13:45-15:15 桃井和馬さん講演
 15:15-15:45 トークセッション
 16:15- 交流会(つくって食べてつながって...)
 参加費 前売り:1000円 当日:1200円 学生以下: 無料
 お問い合わせ・お申し込み 山口 090-9663-6101 george2525peace@yahoo.co.jp
 橋本 090-1864-4887 hashijun@xf7.so-net.ne.jp



講師 桃井和馬 氏

写真家・ノンフィクション作家。1962 年生まれ。これまで世界 140 カ国を取材し、「紛争」「地球環境」「宗教」などを基軸に文明論を展開。講演・講座の他、テレビ・ラジオ出演、著書多数。第32回太陽賞受賞。桜美林大学特任教授。

[主催] エバーグリーン藤枝

[後援] 藤枝市・藤枝市教育委員会

知っておかねばならない過去のできごとがある。 解決せねばならない現在の課題がある。 それらと向き合わずに、どうして未来を語れようか。

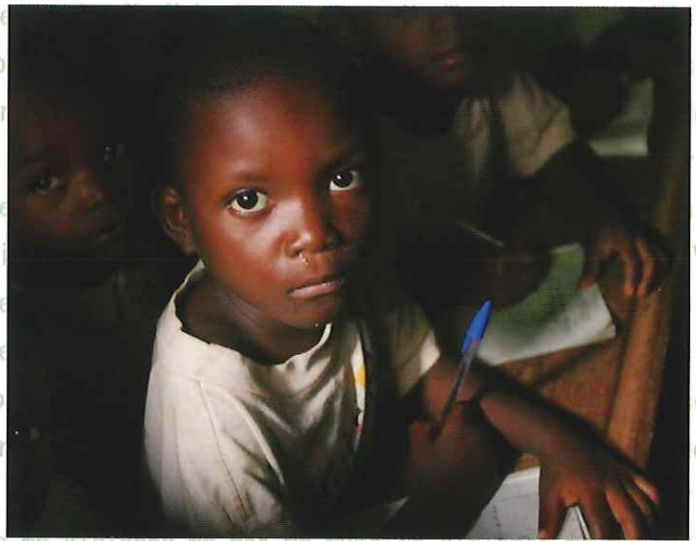
実際に現地へ赴き、多くの人々にレンズを向けると、いつも彼らの視線に、「お前は何者なのか?」「正しく生きているのか?」「心に嘘はないのか?」と、心を射抜かれる思いをしてきた。

「地下資源の奪い合い」「水や食糧の分配問題」が紛争の基本原因だが、それらの多くは「限られた地球の資源と環境」に他ならない。人間の欲望と憎悪のためだけに戦争を繰り返す余地も、環境を破壊しながら利潤だけを追求する余裕も、わたしたちが住む「地球」という閉鎖空間にはない。

人間は簡単に残虐になってしまう生き物だと知ること。そして、どんなにおいつめられたとしても、ほかの人を傷つけてしまう心を暴れさせない覚悟を持つ必要がある。

あいまいな憎しみが、ジェノサイドの根底にある。この国に必要なのは、相手へのそんなあいまいな憎しみを根底から取り去ることだろう。

(桃井和馬氏の講演・著作から)



いっだって「エバーグリーン」、いつまでも「エバーグリーン」

2003年、「平和をつくるために地元で何かできないか」と立ちあげた「エバーグリーン」の活動は今年で15年目を迎えます。教員、市民、高校生、大学生、若者が実行委員会を結成し、これまでに13回の写真展・映画会・講演会を開催してきました。長倉洋海、高遠菜穂子、広河隆一、堤未果・森住卓、山本敏晴、四之宮浩、足立力也、豊田直巳、玉本英子、伊東英朗、伊藤めぐみ、「種まきうさぎ」上映会、昨年2017年には「沖縄うりずんの雨」上映会ジャン・ユンカーマン監督講演会。「主権者は主催者から」「めんどくささ引き受け、楽しむ」「作って食べてつながって」を合言葉に、高校生や大学生、若者たちが中心になって平和や人権について学習し、地域に発信し続けています。

また、2009年からは「平和をつくる旅」と称して長野の「無言館」、京都「立命館大学平和ミュージアム」、伊豆市「妙蔵寺」の佐治妙心（麻希）さん、東京夢の島の「第五福竜丸記念館」と「ひとみ座」を訪問。

2011年からは高知県の「幡多ゼミナール」とも交流し、高知と福島の高校生と共に「韓国・平和の旅」にも参加しました。これを機に私たちも、第五福竜丸と放射線被ばくについての学習と調査を開始。当時中学生で原水爆廃止署名を始めた杉村征郎さん、第五福竜丸の乗組員だった見崎進さん、池田正穂さん、当時焼津漁港の職員だった北原茂治さんたちのお話しを聞く会をもちました。

2013年、14年には「平和をつくる旅・核被災に向き合う青年・学生の集い」に参加し、福島の被災地を学びました。昨年は埼玉県東松山市の「原爆の図 丸木美術館」を見学。

毎年8月の「藤枝市平和展」では、高校生や若者による「青春の鼓動～平和だからこそ～」を楽しみながら企画運営しています。

あなたも一緒に活動しませんか。

